江戸時代にうんちは売り物であった

江戸時代にかかれた物語「東海道中膝栗毛」で
主人公の弥次さん、喜多さんはオシッコやウンチをして
大根と交換してもらう話が出てくる。
ウンチは「金肥」とよばれ、5段階にランクづけされ、
長屋の大屋さんは住民たちのウンチを農家に汲み取らせ、
便所をきれいにしてもらい現金まで得ていた。